コンピュータを活用した国語の学習

八基小学校

1　小単元名　短歌と俳句　（第６学年　国語科）

2　小単元の目標

○短歌と俳句の特質を理解し、文語の調子に親しみ、俳句をつくることができるようにする。

・言葉の切れめに注意しながら短歌を読み、情景を想像することができるようにする。

・俳句を読み、季語を見つけ、季節を考えながら情景を想像することができるようにする。

・自分の思いを大切にして、季語の入った俳句をつくることができるようにする。

3　指導計画の概要（５時間扱い）

(1) 短歌と俳句のそれぞれの特性を調べる。

(2) 言葉の切れめに注意しながら短歌を読み、情景を想像する。

(3) 言葉の切れめや季語に注意しながら俳句を読み、情景を想像する。

(4) 言葉の切れめや季語に注意しながら俳句をつくる。

(5) 情景を想像しながら、友達の作品を鑑賞する。

3　情報機器活用の意図

本校では、全学年で毎月の俳句作りに取り組んでいる。クラス毎に掲示し、お互いの作品を見合ったりしてきているが、なかなかじっくり鑑賞し合う時間がもてないでいた。この小単元で、あらためて俳句について学習するので、ここでは、つくった俳句に自分のえがくイメージの絵をつけて、それをお互いに見合ったり感想を交換し合ったりすることにより、俳句の特質の理解を深めたいと考えた。

また、今年度コンピュータの入れ換えをしていただき、スタディノートが整備され、ファイルの共有により児童どうしの情報のやりとりが簡単にできるようになった。そこで、上記のねらいにせまるために、スタディノートを活用していくこととした。

4　成果と課題

初めて使うソフトであるが、児童はあまり戸惑いもなく取り組んでいた。自分が作った俳句に対して感想が寄せられることについて、楽しみにしている児童がほとんであった。そして、友達の作品に対しても積極的に自分の感想をかきこんでいた。教師も、全員に対してよい表現を認めるメッセージを送った。お互いに見合い、かき込みをすることにより、普段あまり話をしない友達との交流ができたようである。

俳句の学習としては、自分にはない感じ方や言葉の使い方などを、友達の作品から感じ取っていた児童がみられた。

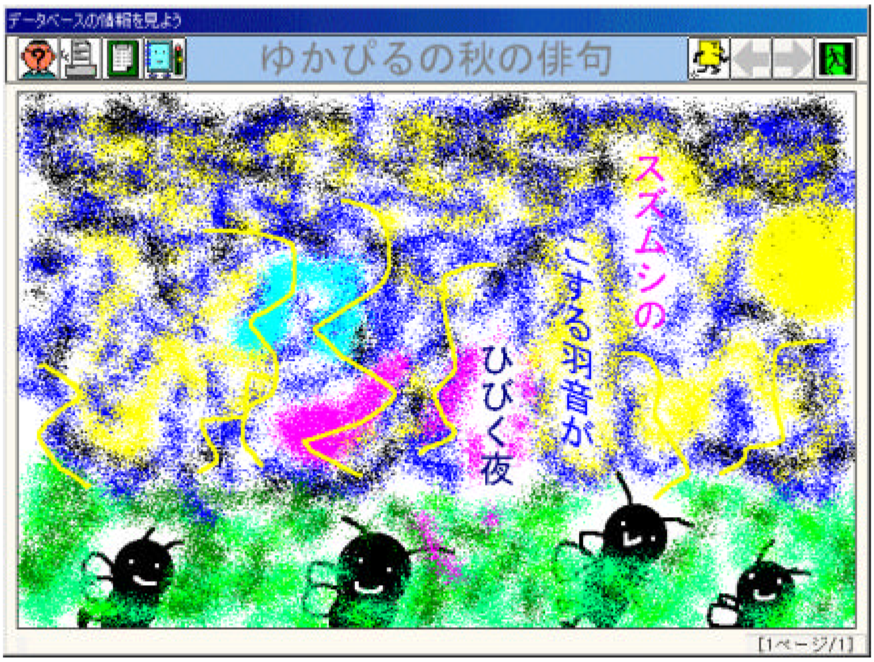
今回は、友達の作品のよさを見つけるところまでだったので、もらった感想を生かして、さらに思いが伝わるような作品づくりまで発展できるような活動にしていきたい。

5　授業実践の概要

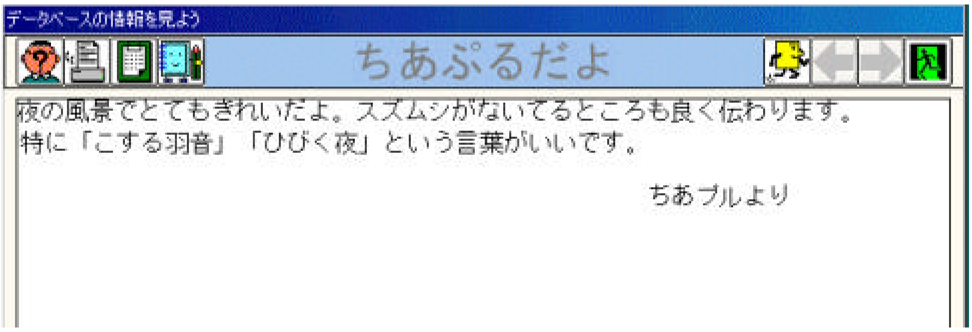
(1) 十月の俳句をつくる。

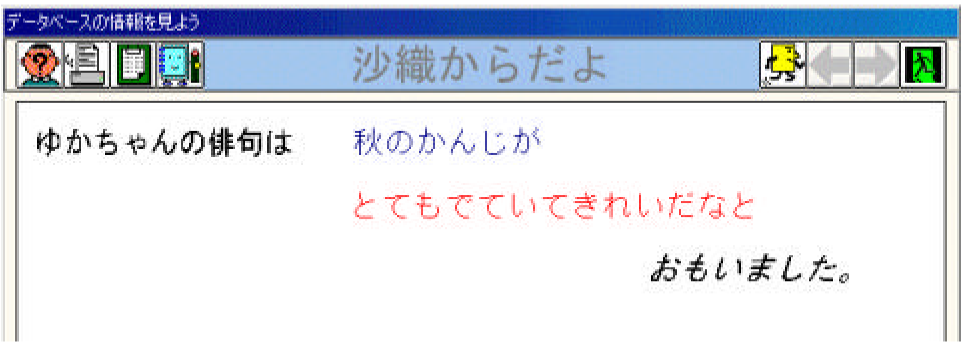
(2) スタディノートで作品として仕上げる。

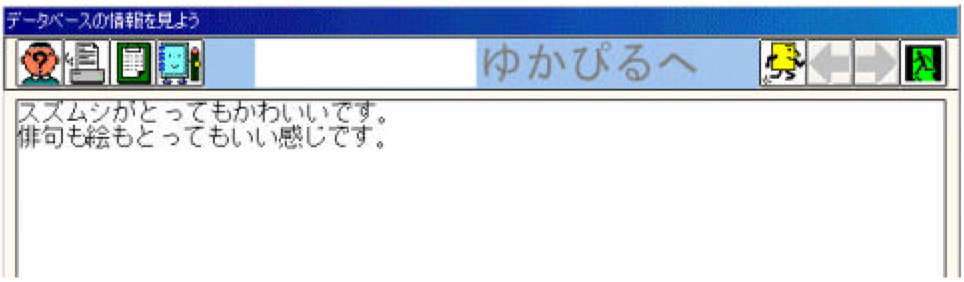
(3) データベース「１０月俳句集」に保存する。



(4) 作品を見合い､感想を書く。







(5) 自分に寄せられた感想を読み、次回の俳句づくりの参考とする。